



# 陰陽五行説

学校長 小 邑 政 明

「学校から家庭から」に今まで書きました「学ぶ」シリーズの構成は、「水から学ぶ」、「石から学ぶ」、「木から学ぶ」、「金から学ぶ」、「火から学ぶ」の五編の構成です。

「石から学ぶ」の「石」を土と読み替えると、水、土、木、金、火の順となります。

今回は、この五つの漢字とその配列、そして「五」にこだわる理由について書きます。

古代中国に生まれた「陰陽五行説」は、日本にも伝わり文化や風俗にまで影響をおよぼしています。たとえば、次に挙げるように、神事、医学、信条にも引き継がれています。

五節句：1月1日(正月)、3月3日(上巳)、  
5月5日(端午)、7月7日(七夕)、  
9月9日(重陽)

五 臓：肝臓、心臓、脾臓、肺臓、腎臓

五 行：仁、義、禮、智、信

詳しくは、『陰陽五行説(その発生と展開)』(根本光人監修)を参考にしてください。

さて、五つの漢字の配列についてですが、これは「陰陽五行説」の『五行相剋』によります。すなわち、「土は水に勝ち、木は土に勝ち、金は木に勝ち、火は金に勝ち、水は火に勝つ」によりました。この勝ちの関係を具体的に述べると、「土(石)は水の流れをせき止め、木は土を押しつけて生長し、金でできた刃物は木を切り倒し、火は金を溶かし、水は火を消す。」となります。

相剋は相手を打ち負かす関係ですが、見

方を変えれば「抑制するもの」となり、やり過ぎを止めてくれる相手として重要だということです。例えば、水は土に流れを抑えられることで、谷や川の形を保つことができ、土は木の根が張ることでその流出を防ぐことができ、木は刃物によって切られることで様々な木工製品に加工され、金は火によって溶かされることで刀や鋸などの金属製品となり、火は水によって消されることですべてを燃やし尽くさずにすみませう。

このように、『五行相剋』からは、二者間には「勝ちに行く」と「抑制してもらおう」という関係と、一巡して戻ってくることにより互いに助け合う「互助関係」にあることも学ぶことができます。

このように「五」にこだわる大きな理由として、「正五角形の一辺の長さとお角線の長さの比は、意味する内容の深さと神秘さから『黄金比』と言われ数学者のみならず多くの人々を魅了し続けている。」ことがあります。本校の図書館に、『黄金比の謎』(渡邊泰治(本校数学部長)著)がありますので、興味のある人は読んでください。

ところで、私が初めて本誌の第174号に「五つの力」を掲載してから4年余、この「陰陽五行説」でひとくくりとします。

今回は、「学ぶ」シリーズのエピソードⅡ(エピソードⅠは「数から学ぶ」として既刊済み)「ふるさとから学ぶ」について書きます。